

令和6年能登半島地震被災地への医療支援活動に参加

福岡歯科大学は福岡県歯科医師会および

福岡県災害福祉支援ネットワーク協議会の

要請を受け、1月1日に発生した令和6年

能登半島地震で大きな被害があつた石川県

内へ医療支援スタッフを派遣しました。

歯科医療支援：2月12日～2月17日

派遣者：森田浩光教授（障害者歯科学分野）、

田崎園子講師（障害者歯科学分野）、

常岡由美子歯科衛生士、本村安純

歯科衛生士

理学療法士支援：3月8日～3月13日

派遣者：白川心一朗理学療法士主任

能登半島地震での歯科支援経験

福岡歯科大学成長発達歯科学講座障害者歯科学分野

講師 田崎 園子

私たちは福岡県JDAT (Japan Dental Alliance

Team: 日本災害歯科支援チーム)の一員として、能登半

島地震の被災地の一つである石川県珠洲市にて歯科医

療支援活動を行いました。JDATの主な活動は、避

難所での物資支援や災害時歯科医療、口腔衛生を中

心とした公衆衛生支援です。私たちは活動期間中に

合計で14か所の避難所を回り、物資の支援や口腔医

療支援に従事しましたが、JDATの先発隊による災

害関連死を防ぐための口腔ケアに対するポスターや指

導などの啓発活動、そして何より断水状況でも生活用

水の確保がされているおかげで、その活動は物資の補

充と義歯調整や急性症状への対応、高齢者の方への口
腔ケアなどの軽度な対応だけで済みました。

被災地にはJDATの先発隊のほか、各県より多く
の災害支援チームが派遣されており、Web会議ツール
とクラウド上のファイル共有サービスを使いながら、そ
れぞれ情報を交換し、多職種における連携を図りま
した。

『災害歯科保健』という領域は、JDATが結成さ
れるより以前から存在しており、ラピッドアセスメント
や支援の方法、歯科医療支援を地域へ戻す一連の流れ
などは知識として持っておりましたが、実際に活動を
行う中で、より深い理解と知識が必要であることを実
感しました。

災害はいつどこで起きてもおかしくないものです。今
後もさらなる技術や知識の向上に努め、災害時には歯
科医療支援活動の助を担っていければと思います。

最後になりましたが能登半島地震により、お亡く
なりになられた方、そのご遺族の皆様に対し謹んでお
悔やみを申し上げます。また、被災された皆様に心よ
りお見舞い申し上げますとともに、早期の復興を祈念
いたします。



能登半島地震における災害支援を経験して

福岡歯科大学医科歯科総合病院 整形外科リハビリテーション科

理学療法士 主任 白川心一朗

この度、福岡県DWAT (Disaster Welfare

Assistance Team: 災害支援福祉チーム)の一員とし

て、能登半島地震の被災地の石川県輪島市および珠洲

市にて支援活動を行いました。主な活動は、避難者の

生活機能の低下や要介護度の重篤化などの二次被害

防止のため、要配慮者の抽出や介助を要する人への応

急的な支援です。

私が被災地支援に派遣されたのは3月上旬で、震災
発生から2か月が経過しているのにも関わらず、町は
瓦礫の山、避難所には人も多く、最近になりようやく
水道が復旧したなど復興には程遠い状態でした。

輪島市では最大規模の避難所である輪島中学校に
常駐しました。輪島中学校では段ボールハウスという簡
易個室が行き渡っておりましたが、逆にそれが目隠し
になり、寝たきりになった方が発生するなど災害支援
の難しさを感じました。

珠洲市では各避難所を巡回し、避難所生活で足腰
が弱ってきた方に体操指導やマッサージの方法などを
伝えましたが、これも継続的な支援の必要性を強く
感じました。

避難されている方が1
日でも早く元の生活を取り
戻せるように、出来る限
りの早期復興を願ってやみ
ません。また、今回の震災
にてお亡くなりになられ
た方やご遺族の皆様に対
し謹んでお悔やみ申し上
げます。

